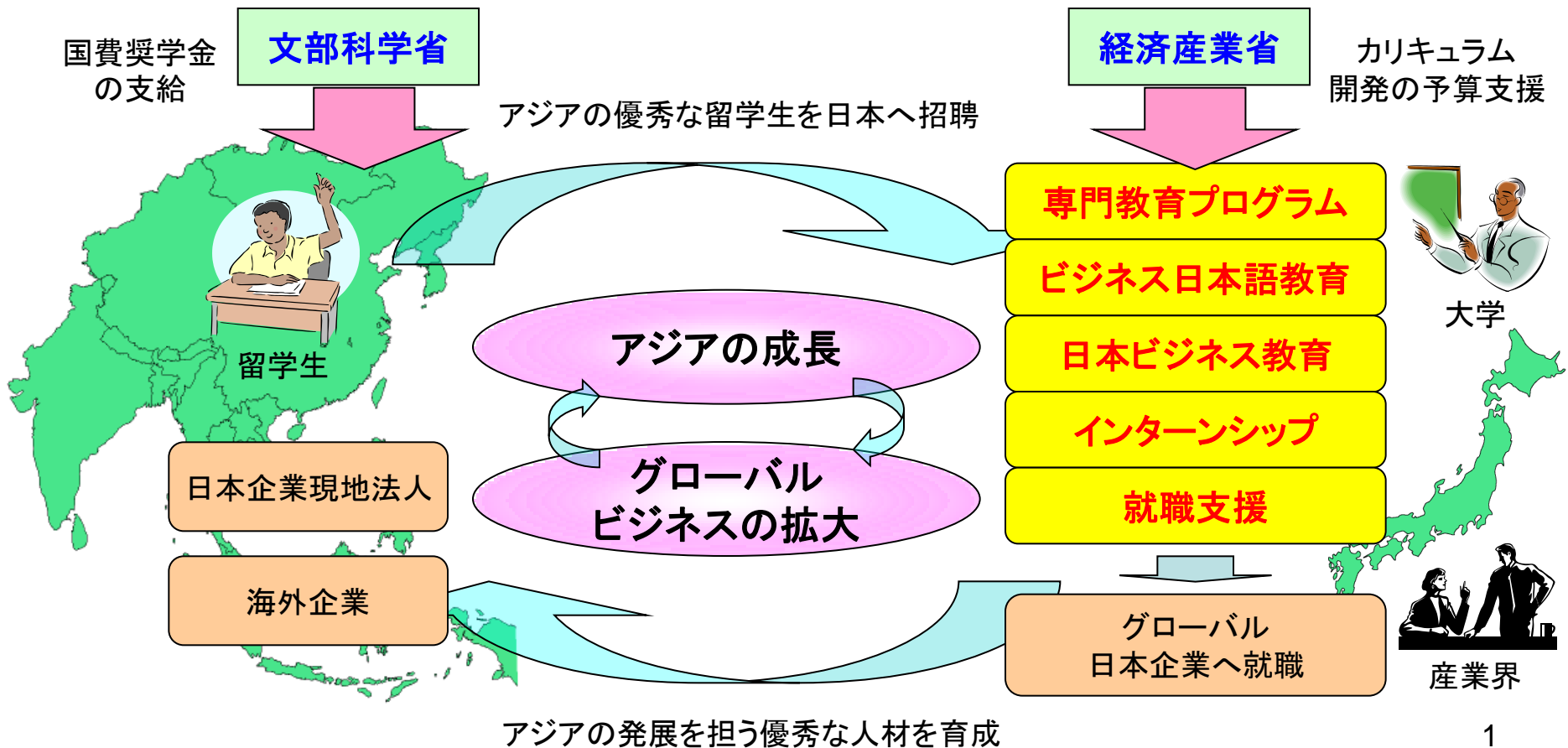


アジア人財資金構想
「留学生リクルーティング・海外日系企業調査」
報告書

中部経済産業局
産業人材政策課

0. アジア人財資金構想の概要

- 近年、日本企業のアジアを中心とした海外事業展開の加速に伴い、日本と現地の架け橋となる優秀な人材の確保が重要となっている。
- 日本企業、海外日系企業に就職意欲のある能力・意欲の高いアジア等の留学生に対し、専門教育から就職支援までの一連の事業を通じ、産業界で活躍する専門イノベーション人材の育成を促進する。



1. 「留学生リクルーティング・海外日系企業調査」の概要

- 【訪問概要】**
- ①アジア人財資金構想「自動車産業スーパーエンジニア養成プログラム」における留学生の受入促進のため、中部経済産業局、(国)名古屋工業大学、(財)中部生産性本部が合同で日本留学フェアへ参加し、関心のある学生を多数発掘した。
 - ②海外大学を訪問してリクルーティング活動を行い、今後、両大学間における留学生の派遣やインターンシップ等の促進に向けて、引き続き、意見交換を進めていくことについて合意を得た。バンドン工科大学については、大学間協定を締結する方向で検討することとなった。
 - ③関係機関を訪問して「自動車産業スーパーエンジニア養成プログラム」をPRし、広報の機会がある場合は紹介してもらうことについて理解を得た。
 - ④海外日系企業へヒアリングを行い、概ね、本プログラムが企業の人材育成ニーズに即していることを確認した。また、留学生だけでなく、海外日系企業の現地従業員に対する人材育成など、アジア人財資金構想の制度のさらなる発展に向けて、新たな政策ニーズを掘り起こした。

【訪問日程】 平成21年9月30日(水)～10月7日(水)、6泊8日

【訪問国】 インドネシア、タイ

【参加者】

| | |
|-----------------------------|-------|
| 経済産業省 中部経済産業局 産業人材政策課 企画係長 | 伊野 卓也 |
| (国)名古屋工業大学 学長補佐・大学院工学研究科 教授 | 佐藤 淳 |
| 〃 国際交流センター 准教授 | 岩津 文夫 |
| 〃 国際企画室 マネージャー | 水野 満 |
| (財)中部生産性本部 専務理事 | 羽根 博巳 |
| 〃 企画事業部 主任 | 加藤 敬 |

2. 訪問行程

| 訪問日 | 訪問内容 | 訪問都市 |
|--------------|------------------|------------|
| 9月30日(水) AM | 日本(名古屋)発 | |
| 〃 PM | インドネシア(ジャカルタ)着 | |
| 10月 1日(木) AM | JETROジャカルタ訪問 | ジャカルタ |
| 〃 PM | 矢崎総業(株)訪問 | タンゲラン |
| 〃 PM | 在インドネシア日本国大使館訪問 | ジャカルタ |
| 10月 2日(金) AM | アイシン精機(株)訪問 | ブカシ |
| 〃 PM | バンドン工科大学訪問 | バンドン |
| 10月 3日(土) AM | 日本留学フェア | ジャカルタ |
| 10月 4日(日) PM | インドネシア(ジャカルタ)発 | |
| 〃 PM | タイ(バンコク)着 | |
| 10月 5日(月) AM | 在タイ日本国大使館訪問 | バンコク |
| 〃 PM | チュラロンコン大学訪問 | バンコク |
| 〃 PM | トヨタ自動車(株)訪問 | サムットプラーカーン |
| 〃 PM | 泰日工業大学・JETROバンコク | バンコク |
| 10月 6日(火) AM | (株)デンソー訪問 | チョンブリー |
| 〃 PM | 曙ブレーキ(株)訪問 | チョンブリー |
| 〃 PM | 泰日経済技術振興協会 | バンコク |
| 〃 PM | タイ(バンコク)発 | |
| 10月 7日(水) AM | 日本(名古屋)着 | |

3. 訪問先の位置関係(①インドネシア)

- 【国名】インドネシア共和国
- 【面積】192万km²
(日本の約5.1倍)
- 【人口】2.3億人
(日本の約1.8倍)
- 【GDP】5,100億ドル
(日本の約0.10倍)
- 【首都】ジャカルタ



3. 訪問先の位置関係(②タイ)



- 【国名】タイ王国
- 【面積】51万km² (日本の約1.4倍)
- 【人口】0.63億人 (日本の約0.50倍)
- 【GDP】2,700億ドル(日本の約0.056倍)
- 【首都】バンコク

4. 日本留学フェア開催結果

【開催日時】 平成21年10月3日(土) 9:00～16:00 (インドネシア)

【開催場所】 Balai Sidang Jakarta Convention Center

【参加者数】 ○日本からのブース出展大学数 18大学、13日本語学校
○ブースを訪問した学生数 約80人
○その他、資料の配布数 約150部

【開催結果】 (1)ブース対応の感触

○他の国で開催される日本留学フェアに比べ、来場学生数が2倍程度多い。また、日本への関心が高く、熱心さが感じられる。

○学生だけでなく、親とともに説明を受けるケースも多い。

○予想よりもバンドン工科大学の学生が多い。前日に訪問したバンドン工科大学のコンタクトパーソンを紹介。

(2)学生からの主な質問

○奨学金や入学方法についての質問が多い。

○特定の研究テーマを挙げて、その研究をすることができる専攻はあるかと質問する学生もあり。

(3)ジャカルタ日本祭りとの併催

○日本留学フェアとジャカルタ日本祭りを同時期に併催することで、集客の相乗効果を図った。



5. 大学訪問結果(①バンドン工科大学)

【訪問日時】 平成21年10月2日(金) 14:00～16:00 (インドネシア)

【対応者】 Yoewono M 機械工学部長
Wibisono ビジネスマネジメントスクール 学部長
Yudoko ビジネスマネジメントスクール 副学部長
Hudrasyah ビジネスマネジメントスクール マーケティング科長
Hasan Basri ビジネスマネジメントスクール MBA科長

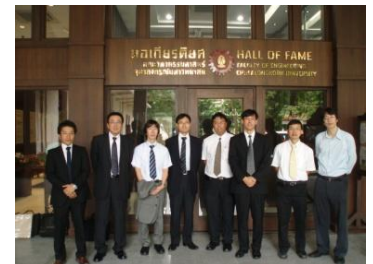
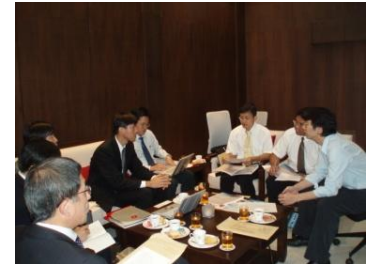
【大学概要】 理学、工業技術学、鉱業技術学、土木工学、美術デザイン学、一般教養学の専攻を有する。インドネシアにおける最も優れた理工系大学であり、工学系人材供給の柱となっている。

- 【訪問内容】
- (1) アジア人財資金構想についての意見交換
 - 受入人数等について質問があり返答。
 - バンドン工科大学では、入学・卒業のタイミングが年3回あり(多くは9月入学、7月卒業)、本プログラムのスケジュールにあわせなければならない。
 - (2) 大学間協定についての意見交換
 - 大学間協定書の雛形を提示し、協定を締結する方向となった。
 - (3) トレーナーズトレーニングプログラムについての意見交換
 - JETROから依頼があり、トレーナーズトレーニングプログラムを進めている(詳細は、JETROジャカルタの意見交換メモを参考)。
 - (4) 学内見学



5. 大学訪問結果(②チュラロンコン大学)

- 【訪問日時】** 平成21年10月5日(月) 10:00~11:30 (タイ)
- 【対応者】** Banjerdpongchai 電子工学部 助教授
Chantranuwathana 機械工学部 助教授
Noomwongs 機械工学部 講師
- 【大学概要】** 科学、工学、建築学、医学、歯科医学、薬学、文学、会計商学、政治科学、経済学、教育学、法学等の専攻を有する。タイにおいて最も古い歴史を持つ権威ある大学。
- 【訪問内容】** (1) アジア人財資金構想についての意見交換
- 留学生の条件、受入人数、募集時期、本プログラムの実施期間、留学生の経費的負担、日本企業への就職期間等について質問があり返答。
 - 留学申込書を送ることとなった。
 - イコールパートナーシップということで、(国)名古屋工業大学からも留学生を送ってほしい。
 - 学部の学生に対し、6~7月に、2~3ヶ月間の短期留学できるとよい。これに対し、アジア人財資金とは別に学部で短期留学において、大学院に進学するときにアジア人財資金のプログラムに参加するということが可能であると返答。
- (2) 学内研究室見学



5. 大学訪問結果(③泰日工業大学・JETROバンコク)

【訪問日時】 平成21年10月5日(月) 16:00~17:00 (タイ)

【対応者】 クリサダ 学長、水谷 講師 (JETROバンコク 秦 次長 同席)

【大学概要】 工学部、情報学部、経営管理学部の専攻を有する。日本とタイの友好、タイ産業界の人材育成を目的として設立された泰日経済技術振興協会が母体となり設立。「日本型ものづくり大学」を目指す。

【訪問内容】 (1) アジア人財資金構想についての意見交換

- 受入対象、日本企業への就職期間、受入人数等について質問があり返答。
- すぐに大学院を作ることができないため、学生を日本の協定校の大学院に進学させるなどの面で協力を得たい。

(2) 泰日工業大学の概要についての説明

- 学生数は合計2,000人。2010年度は1,000人の確保を目指す。
- 工場研修・インターンシップが特徴。日本商工会議所経由で紹介してもらった海外日系企業や、タイ国内の自動車部品企業等へ、4カ月間、送り込む。
- タイの企業からは、英語、日本語に強いエンジニアへのニーズが強い。学生からは、日系企業へのイメージがよく、就職希望が強い。

(3) 企業からの支援についての意見交換

- 企業等からの寄付金による奨学金制度あり。4,000万バーツ(=約1.2億円)を集めた。日本商工会議所経由で要請したことが成功のポイント。
- 2009年1月からスタートしたC棟には、日本の自動車企業や工作機械企業等から寄贈してもらった実機・機材を置き、教育に用いている。

(4) 学内研究室見学



6. 企業訪問結果(①矢崎総業(株))

【訪問日時】 平成21年10月1日(木) 13:00~15:30 (インドネシア)

【対応者】 縣(あがた)社長、永沢 副社長、野村 工場長

【企業概要】 自動車用ワイヤーハーネスの製造。

【訪問内容】 (1)アジア人財資金構想についての意見交換

- 留学生の条件等について質問があり返答。
- 英語で講義が行われるのであれば5、6人程度、日本語で講義が行われるのであれば2人、本プログラムや工場長養成塾に参加させてみたい。ただし受講期間が問題となる(短期集中型で工場長養成塾を受講できるとよい)。

(2)矢崎総業(株)の概要・人材育成・人材配置についての説明

- 昨年末から不況の影響を受けたが、プリウスなど売れる車種のワイヤーハーネスを扱っていたため、現在は生産フル稼働となっている。
- 生産管理ボードを設置。現地人スタッフに生産管理の意識付けをするために、見える化した。また、工場の壁に生産計画・実績等を張り出し共有化。
- 日本人スタッフは、合計20名を配置。現地人スタッフの人材育成は、外部研修やOJTにより育成。日本人スタッフが見本や考え方を現地人スタッフに見せることが重要。
- マネージメント層に求められることは、知識(生産管理)、統率力、現地人スタッフから信頼されること。
- 現在、日本人スタッフが配置されているポストも、将来的には、現地人スタッフに変えていき、現地人スタッフが自立して工場を運営していく現地人化の方向。

(3)工場見学



6. 企業訪問結果(②アイシン精機(株))

【訪問日時】 平成21年10月2日(金) 9:00～11:30 (インドネシア)

【対応者】 小幡 社長、Ariawan 工場長、Sutan Hutadjulu 製造部長

【企業概要】 自動車用ドアハンドル、ドアフレーム、クラッチ、エンジンマニホールドの製造。

【訪問内容】 (1)アジア人財資金構想についての意見交換

○優秀な人材を日本企業に就職させることも重要であるが、現地企業に人材供給することも重要。

(2)アイシン精機(株)の概要・人材育成・人材配置についての説明

○1～3月期の受注は前年度比で30%の減少。4～6月期は前年度比と比べてもかなり回復しており、7、8月は前年度と同じくらいまでに回復。

○トヨタ自動車のアバンザ、ダイハツのセニア等、ミニバンが好調。

○トヨタグループでは、アセアン地域内で部品調達を相互補完しあう戦略。

○これまで日本へ留学生したことがある者を採用したことはない。

○日本人スタッフを7人配置。課長クラスには現地スタッフを配置。社内の会議では日本語と現地語、文書は日本語と英語。会社のサポートで、日本語教育研修を実施。

○アイシン高等学園へ2名留学させ、現場リーダーを育成している。

○従業員への体系的な人材育成カリキュラムはない。個別の人材育成テーマが発生した場合に、日本の工場に勉強させに行くことが多い。

○役員、部長クラス向けのマネジメントやリーダーシップ等の人材育成カリキュラムはある。必要な能力としては、問題解決力、チーム連携力。

(3)工場見学



6. 企業訪問結果(③トヨタ自動車(株))

【訪問日時】 平成21年10月5日(月) 13:30~15:30 (タイ)

【対応者】 Narongchai S 副社長、宮川 人事部 エグゼクティブコーディネーター、
齊藤 人事部 コーディネーター

【企業概要】 自動車(カムリ、ウィッシュ、ヤリス、イノーバ、アバンザ等)の製造。

【訪問内容】 (1)アジア人財資金構想についての意見交換

- 日本企業への就職、受入人数、募集方法等について質問があり返答。
- チュラロンコン大学の学生は、さらに条件のよいところへと別のキャリアパスを歩む傾向にある。ミドル層くらいの方が安心。
- アジア人財資金構想の制度上の課題として、以下が挙げられる。
 - ①日本で就職すると経験もないのに給与が高くなってしまう。
 - ②企業は人事・給与規則があるため、特別扱いができない。
 - ③現地スタッフを、数年、日本へ研修に行かせることもあるが、戻ってきても現地スタッフと変わらない身分の扱い。キャリアパスを考えるのが難しい。
- 2~3年くらいの経験を積んだ若手従業員に本プログラムに参加させたい。

(2)トヨタ自動車(株)の概要・人材育成についての説明

- 総従業員数は約1,700人。うち、日本人スタッフは150名。現地人3人を業務担当執行役員まで育てることができた。それぞれ、工場マネジメント、生産技術、渉外を担当。
- 採用は、チュラロンコン大学、キングモンクット工科大学等、トップ10の大学が中心。
- アジアは現地化が遅れている。安全に関わる部品(エンジン等)は、日本で開発しているが、現地化していきたい。アジア域内で分担して部品を生産。アジアで見た場合、タイが中心となっていく。マネジメント層の育成が必要。
- 日本本社への出向扱いで、工場等でOJTやOff-JTの研修で人材育成ことが手っ取り早い。早く、ゆくゆくは現地で育成するようにはしていかなければならないと認識している。



6. 企業訪問結果(④(株)デンソー)

【訪問日時】 平成21年10月6日(火) 9:30~12:00 (タイ)

【対応者】 下川 社長、今井 副社長、朝岡 副社長、神戸 人事部長、
北澤 人事部 アドバイザー、佐々木 製造部 アドバイザー

【企業概要】 自動車用スターター、発電機、ファン、ワイパーモーター等の製造。

【訪問内容】 (1) アジア人財資金構想についての意見交換

- 本プログラムの授業量、インターンシップ、受入人数、募集方法、メンター制度等について質問があり返答。
- 本プログラムの留学生は採用したい人材である。また、4~5年程度の実務経験を経た係長になる前くらいの現地スタッフに参加させることができるとよい。

(2) (株)デンソーの概要・人材育成・人材配置についての説明

- 人件費は日本の1/10。市場ニーズが小型車にシフトしており、コスト低減の圧力が強く、現地化が必要。部品の生産は現地で行えるようになったが、生産設備・生産ラインの組み立ての現地化が課題。
- 新しいプロジェクトが始まったり、欠員が発生した場合に採用活動を行う。技術系はキングモンクット工科大学、事務系はチュロンコン大学からの採用が多い。
- 取締役クラスを育成するプロジェクトとして、グローバルリーダーシッププロジェクトを2002年から展開中。コンピテンシー指標を作成し、個人目標管理を実施。日本本社にて育成(管理者・スタッフは現地にて育成)。
- 部門長の育成については、デンソー経営スクール(行動開発プログラム)を実施。ただし、体系的なカリキュラムになっていないことが課題。
- マネージャー候補の20~30才代がそろいつつある。幹部となるには、マネジメント能力(人と仕事のマネジメント)、組織関連協力、判断力、創造力が必要。8~9割の部長ポストは現地人を配置。人事労務担当の取締役は、(株)デンソー(タイ)勤続30年の現地人。日本人のポストを現地化しつつある。
- 技能系の人材育成については、(株)デンソー(日本)が行っている階層別研修を導入し、デンソートレーニングアカデミーを設立。アジア地域のデンソーグループ会社、タイのサプライヤーのトレーナー向けの研修を提供。
- 語学、マネジメント関連の研修は外部講師を活用。マネジメント関連の研修も外部講師に頼らなくても実施できるようになることが必要と認識。現地で自主的に人材育成ができるようにすることが課題。
- 99コース(マネジメント&マインド、語学、安全、技術、技能)を開講し、年間約3千人が受講。日本ではセンサーに置き換わったが、タイでは手作業が多いことから、5感で気付く研修内容が中心。
- 2007年から技能五輪に出場し、CNC旋盤職種で銀メダルを、2009年には金メダルを獲得。

(3) 工場・トレーニングアカデミー見学



6. 企業訪問結果(⑤曙ブレーキ(株))

- 【訪問日時】** 平成21年10月6日(火) 14:00~16:00 (タイ)
- 【対応者】** 関根 社長、川上 営業企画部長、笹原 製造部長、Kitprayoon 品質課長
- 【企業概要】** 自動車用・2輪車用・産業機械用ディスクブレーキ、ブレーキパッド等の製造。



【訪問内容】 (1)アジア人財資金構想についての意見交換

- 受入人数等について質問があり返答。
- 当初、本プログラムは、研究開発者を育成するものと思っていたが、必要としている人材ニーズに遠くはない。一方、現地スタッフの人材育成は、現地か日本本社にて行うという考えしか持っていなかったため、本プログラムに参加させるという発想はなかった。



(2)曙ブレーキ(株)の概要・人材育成・人材配置についての説明

- 2008年3月から生産開始。従業員124人(うち、日本人スタッフは9人)。
- 採用活動は、インターネット、会社の前の掲示板、工業団地の掲示板を活用。
- コアメンバーに対しては、日本本社にて、日本を知る研修を4回に分けて実施中。
現在の現地人マネージャーは、他社にて実務経験を積んだ者を配置。
- 改善活動として、班長・係長を中心に、毎日、自主的に改善活動を実施する朝一活動を展開。生産現場のラインリーダーの育成として、3ヶ月間の研修を4回に分けて実施中。
自ら標準作業を作成できるように、3、4名の現地スタッフを育成。午前中に研修し、午後は改善活動を行う。
- 工場では、従業員のスキルマップを張り出し、どの作業ができるか見える化。従業員が少ないため、多様な品種の量産に対応できる多能工の育成が重要。
- 役職毎の役割が明確化されていないため、階層毎の研修が実施できていないことが課題。



(3)工場見学

7. 関係機関訪問結果(①在インドネシア日本国大使館)

【訪問日時】 平成21年10月1日(木) 17:15~18:15 (インドネシア)

【対応者】 野口 一等書記官、土屋 二等書記官

【訪問内容】 (1)アジア人財資金構想についての意見交換

- 留学生の負担、企業の反応、AOTS((財)海外技術者研修協会)が実施する研修との違いなどについて質問があり返答。
- アジア人財資金構想の英語表記がわかりづらい。頭文字による略称など、工夫した方がよいのではないか。
- 現在の大使は、インドネシアの大学にて講演することが多い。本プログラムの募集スケジュールや応募方法など、募集要項のペーパーをくれれば、講演の際に紹介する。

(2)インドネシア人についての意見交換

- インドネシア政府の研究技術省や大学には、日本へ留学したことのある者が多い。日本への関心は高く、親日派で、金さえあれば、日本へ留学したいという者は多い。
- インドネシアの高校のカリキュラムが変更され、第2外国語の選択肢として、日本語が加わった。ただし、日本語講師のレベルが低いことが課題。
- インドネシアの留学生は、日本から帰国すると、スロースピードさに耐えられない者もいるとのこと。日本人がインドネシアを理解するプログラムがあってもよいのではないか。

(3)インドネシアに所在する日系企業の現状についての意見交換

- 経済産業省技術協力課が、昨年度、海外日系企業の人材育成ニーズの調査のためにインドネシアへ来たことがある。海外人材を日本で採用し、何年か後に母国に戻すことになる場合、給与を日本水準にあわせるか、母国水準にあわせるか、難しい問題が出てくるが、何ヶ国か転勤させてから母国に戻すようにしている企業もあるとのこと。
- 大手企業では、人材育成はOJTでやっている。

7. 関係機関訪問結果(②JETROジャカルタ)

【訪問日時】 平成21年10月1日(木) 9:30~10:30 (インドネシア)

【対応者】 松井 次長、市原 シニアディレクター

【訪問内容】 (1)アジア人財資金構想についての意見交換

- 企業の関心、募集方法等について質問があり返答。
- 日本で採用し、何年か後に母国に戻す場合、給与を日本水準にあわせるか母国水準にあわせるか難問題。
- 重点受入大学を増やしていかなければ、留学生30万人計画を達成することが困難ではないか。
- 日本財団では、留学生向けに日本語検定を実施しているので、パンフレットを置かせてもらうとよいのではないか。

(2)自動車人材育成支援事業についての意見交換

- 日インドネシア経済連携協定(JIEPA)の中に、自動車部品産業の人材育成が挙がっており、自動車人材育成支援事業を進めている。トレーナーズトレーニングプログラムでは、インドネシア企業(Tier2クラス)の生産性向上、品質管理の向上を目的に活動。
- インドネシア人自身がトレーナーとなって、自立的にカイゼンの手法を伝達させていく。現在、日本語版テキストの体裁を整え、現地語に翻訳中。完成次第、参考までに郵送する。
- トレーナー候補の育成にあたっては、日本の生産現場で体験させることが必要。工場長養成塾等と連携することで実現できないか。協力をお願いしたい。

(3)インドネシアの自動車事情

- インドネシア国内では、ほとんどの自動車は日本車が流通。ただし、自動車を持っているのは外国人か、現地の富裕層のみ。20年度の生産は60万台であったが、21年度の生産は45万台に落ち込んでいる。



7. 関係機関訪問結果(③在タイ日本国大使館)

【訪問日時】 平成21年10月5日(月) 8:30~9:15 (タイ)

【対応者】 富田 一等書記官

【訪問内容】 (1)アジア人財資金構想についての意見交換

- 留学生の条件、受入人数、募集方法、日本語教育等について質問があり返答。
- アジア人財資金構想は2年間の教育プログラムであるとは承知していなかった。学生にとっては短いのではないか。
- タイの大学は、日本語科目を設けているが、必須科目ではなく選択科目の扱い。理系の専攻では、日本語教育に力を入れていない。理系で日本語教育に力を入れているのは泰日工業大学くらいではないか。



(2)タイ人についての意見交換

- 日本のアニメを見て育った世代が学生になってきている。日本食もブームというよりは、食生活として定着してきている。
- 日本への留学熱は高く、日本語学校が多い。ただし、月謝と時間が課題。
- 学生には、IT分野の専攻に人気がある。自動車分野の専攻も人気はあるが、そもそも自動車工学を有する大学が少ないこと、学生にとってみると自動車企業に就職した場合にどこまで仕事をさせてもらえるのか見えずらい。

(3)タイの自動車事情についての意見交換

- タイではほとんどが日本車であり、流通している(約7割がトヨタ自動車)。日本で買う価格の2倍近くの価格であるが、頑張って購入している。主要部品を輸入に頼っており、価格が高くなってしまふ。

7. 関係機関訪問結果(④泰日経済技術振興協会)

【訪問日時】 平成21年10月6日(火) 17:15~18:15 (タイ)

【対応者】 Sumananont 校長、Koontanakulvong 事務局長、
山本 アドバイザー、吉田 アドバイザー

【協会概要】 元日本留学生らが中心となり、日泰経済協力協会の協力も得て設立。①技術・管理セミナー、②計測機器の校正・環境分析サービス、③日本語・タイ語・英語・中国語研修、④技術専門書・定期刊行物の出版等が事業の柱となっている。

【訪問内容】 (1)アジア人財資金構想についての意見交換

○国からの支援、自立化後の展開、留学生の反応、募集方法、インターシップ、卒業研究テーマ、目指す人材像、日本企業への就職期間等について質問があり返答。

(2)泰日経済技術振興協会の概要についての説明

○技術・管理セミナーでは、約2千コース／年を開講し、約7万人／年が受講しており、タイ経済界へのインパクトが大きいサービスとなっている。

○日本語研修としては、タイで最も大きい日本語学校となっている。講師は約120名で、受講生は約1.2万人／年となっており、増加傾向にある。タイは日本語教育のレベルが高い方である。日本へ留学する場合、日本語研修を受けることが一般的。

○20~30才代の社会人の女性が仕事のために受講するケースが多い(通訳や日系企業・タイ企業の製造部門のコーディネーターとして)。富裕層でなければ受講することは難しい。

○アジア人財資金構想に採択された他大学と相乗りで日本語研修特別コースをつくることができるよと提案したのに対し、可能であると返答あり((国)東京農工大学では、3、4名の日本へ来る前に留学予定者に対し、3ヶ月の特別コースを実施した実績あり)。



中部経済産業局 地域経済部 産業人材政策課

T E L : 052-951-0412

F A X : 052-951-9799

E-mail : chubu-jinzai@meti.go.jp

<中部経済産業局産業人材政策課のページ>

URL : <http://www.chubu.meti.go.jp/jinzai/>